

九州地区の研究会の動向

古賀淑子

一、幼稚園教育を端麗に育てましょう。

近頃研究会がいよいよ盛んになつてその熱意は実質的に研究討議または研究資料として整えられて、保育界へ表現されていることは、意義深く幼稚園教育の本質的姿を端麗に向上させてゆくために、まことにようこばしいことあります。

従来の大会や総会における、研究議題、研究内容には制度上の問題、経営管理、財政上の諸問題に対して、また、常に幼稚園と保育所の限界について、その内容や目的を正しく、趣旨を明確にすべきである点などについて、何年間も問題がくりかえされ、神経を使つたにもかかわらず、未だすつきりせず、問題を持った今まである点で、甚だ遺憾とするところですが、一応最近は方向を転じて、幼稚園自体の大切な責務に根を下して実際面に足元を整える感あつて、幼稚園教育内容の本質的研究に重点が注がれている傾向であり、六領域についても、各角度から研究されつつ、カリキュラム構成のみ窮屈にとらわれず、両面が円滑に理解され、小学校との関連も自から、スマースに運ばれつつあることは各々の研究会を通じての大きい飛躍であり、また幼稚園設置基準と相並んで幼稚園教育内容の向上こそ重要な研究対象であることが再認識を深くし、幼

稚園が教育的水準を高めゆく今後の課題であると思います。

一、幼稚園教育は科学性と愛性の両面を！

歴史的にも幼稚園教育は教育の中でも、より文化的であり、進歩的立場がありながら、部分的には何となく力弱き感があることは、対象が幼き子どもである故ばかりでなく、今一段とこの教育に系統的知性をもつて基礎的教養と指導能力や、教育のテクニックに留意することが望ましいことがあります。

せつかく、実際的面にはよきととのいを持ちながら、旧来の幼稚園はやもすれば、事務的機構の確立、様式、記録や表現方法に対する技術につたなき面も多く、今後幼稚園教育の権威向上を推進させてゆかねばならぬためにも、反省すべき点と思われますのでこのような点にもよく研究されてゆきたいものであります。

一、正しい原理と新鮮さをもつて

幼児の教育をただ母性愛、教育愛の天性とのみにとどまらず、特に私立においては計画性のある事務的処理を十分加味して、新時代に成育させてゆく新鮮さをもつて、革新すべき点が多くあるように思ひます。

近年幼児教育についてますます研究意欲が旺盛となるにしたがい、熱心のあまり、一時の流行の形式や枝葉の綾にのみ捉われて肝心な要素や原理的な問題が忘れられぬようにして、研究することが大切な点であります。

一、第七回九州幼稚園連合大会

佐賀県唐津市において（昭三三・十一・二一～二二）九州幼稚園連合会、佐賀県の主催（主管佐賀県幼稚園連盟）とし、主として六領域

に関する問題と經營管理について分科会がおこなわれ、翌日佐賀県幼稚園連盟研修部によって分科会報告のまとめの資料が作製（用紙五枚）配布され、九百名の会員相互の協力で盛況裡スムースにおこなわれました。

同じ月に同じ九州で第七回全国幼稚園施設研究大会が開かれ同じ盛況熱意を示しておこなわれたことは偶然で全く奇縁でした。

私も全国施設協議会の副会長として、また九州幼稚園連合大会の事務局長として、及ばずながら尽力いたしましたが一九五八年におこなわれた研究会を眺めてみると、いずれも立派な成果を収め得たばかりでなく、その後につづく研究意欲と態度が一層前進してゆきぎざしとなり、共に歩むこの途の同志の集いが親睦と近親感を深くしたことは重ねてよろこびにたえぬ次第であります。

一、分科会議題の種別を通して

一九五八年の研究会の分科会議題および研究発表を参照し、昨今の九州地区の研究会の動向を考察してみると、教育内容に立脚したケースに取組んで研究されている姿が見受けられますし、参加会員数も非常に多く若い先生がたも熱心な研究態度をもつて、発言もしつかりと討議され、特に実際保育の発表を望まれている向きも多いようにうかがわれます。

一、佐賀県内研修の状況

① 佐賀県幼稚園連盟研修部 ② 県ならびに連盟指定研究園

- (1) 視聴覚教育 (2) 絵画製作 (3) 健康

年々と抱負は着々実現してまいりました。

（佐賀新道幼稚園長）

④ 造形センター研究集会（幼・小・中学校）
ビルドーカードによる造形 立体的表現

平面的表現 幼稚園
絵画製作

⑤ プロック別研究会

⑥ 佐賀県幼稚園連盟派遣県外幼稚園視察

⑦ 各宗教組織別研究会

一、新しき年への私の抱負

A = 園庭遊具の設定について、総合遊具と分散配置の遊具利用効果と機能発揮の状況

B = 園外遊具の色彩調整とバラ園作りで情操的園庭の環境構成
C = 三才児の取扱いの実際

D = 音楽リズムと六領域の連繋方法

幼稚園の設備を園庭に向けて考慮してみましたがその実際活用と効果を研究してみたいと思います。

幼稚園の施設・設備は教育内容をよりよく可能ならしめ活動させるもので、教材教具や遊具の研究とともに、その遊具の活用、配置についての考慮のされ方によって効果的影響が異なる大切なこともあります。このような大切な施設・設備は必ず財政面をともなうもので私立においては毎年初めに白紙から始まるのみならず赤字経済も施設・設備が一つ充実しただけお供してくるものであり、公立においても限られた予算に苦心多きもので幼き生命の幸福のために経済的研究も園へ対する大いなる貢献ではないかとしきりに念じ、夢に希望をのせていつか到達するようとに微笑に明け暮れしながら年々と抱負は着々実現してまいりました。